

◆帆刈謙治委員 おはようございます。私からは、毎度のことながら、今、説明のあった平成23年度補正予算案、そしてまた新年度当初予算案について、お願いしたいと思います。

国の第3次補正予算分については出ておりますし、第4次補正予算分も一緒に2月定例会に上程されております。第3次補正予算については、震災対応ということがメインになっておりますが、第4次補正予算については農業の本当の基盤整備、これらの力強い構築を目指すという趣旨の予算になっていると思っております。さらには、新年度予算案は、前年度比で100パーセント近くが計上しているということでもあります。当初は心配したのですが、以前、国に予算を一発でぶった切られて、そして新潟県は予算を取りにいかけてくれたということで、国の予算が対前年度比三十数パーセントのものが、県予算では78パーセントくらいだったのでしょうか、それまでにしたということもございます。その後、第3次補正予算、第4次補正予算もあり、一昨年程度までに持ち直してきたという経緯があると思えます。それらを踏まえて、一つめとして、今、補正予算案の御説明がございましたが、新潟県の農地部の2月補正予算の内容、国の第3次補正予算、第4次補正予算の内容について、お伺いいたします。

◎坂井武徳副部長(農地部) 2月補正予算の内容についてでございますけれども、優良農地の確保と農地集積を推進する経営体育成基盤整備事業や、老朽化が進んでおります農業水利施設の更新整備を実施するためのかんがい排水事業を中心に予算を計上しております。なお、2月補正予算につきましては、先に議決いただきました冒頭提案分と追加提案分を合わせて、一般公共事業予算で73億円を計上するものでございます。国の補正予算に対しましては、県の予算編成の時期の関係もございまして、堅めの計上ということになっております。

◆帆刈謙治委員 この予算をどう活用していくのかということをお伺いしたいわけですが、その前に今の説明で、農業基盤整備ということもこれあり。要は補正予算の内訳を見れば、大きいのはほ場整備事業と湛水(たんすい)防除事業等だと思うのです。これまで七、八年でほ場整備などは終わっていましたが、今は11年かかるということ。ただ、コスト縮減といったことを図りながら、あるいは、この補正予算では、ほ場整備等と湛水防除等に特化といいますか、重きを置いていますので、この活用をお伺いしますとともに、ほ場整備事業、あるいは湛水防除事業は、各地区でいっぱい実施されていますけれども、これらの進捗(しんちよく)にどのような影響がありますか。

◎中俣昭雄農地整備課長 今回の補正予算をどう活用するかということです。ほ場整備につきましては、委員御指摘のとおり長工期化という課題がございました。そこで、これらに重点的に配分いたしまして、長工期地区の内、1年前倒し等で、3地区の面工事が終わると。そのほかにつきましても、進捗を図りまして、早期の効果発現を図っていきたく思っております。

それから、湛水防除事業、かんがい排水事業ですとか、ストックマネジメント事業といった事業につきましても、前倒しを行い、完了又は完了のめどが見えるというような形に工期の短縮に努めておりまして、早期に更新、補修等を行い長寿命化対策ができるように努めてまいりたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 具体的には、ほ場整備について、1年くらい早くなったという理解でいいのですか。それから、ストックマネジメント事業についても、いい具合にいつているということですが、期間的にどの程度短縮されて、どうなるということが分かっていたら、お聞かせください。

◎中俣昭雄農地整備課長 ほ場整備事業につきましては、事業採択から10年経過しても、まだ面工事が終わらないというような地区がありまして、それらが問題化してきたということで、これらが15地区ほどございました。この内、今回の補正予算で3地区の面工事が終わりますし、そのほかにつきましても、遺跡調査等の関係で延びる地区がございますけれども、そのほかは大体、来年、再来年でめどがついたということで長工期の解消に向けて進んでおります。

◆帆苅謙治委員 これをメインに聞くわけではないのですが、今、新規というのはどのくらいあって、今後は、新規はどの程度できそうですか。

◎清水俊久農地計画課長 新規の要望状況ということでございます。5か年の農業農村整備事業管理計画というものがございます。これは市町村が作っているわけですが、ほ場整備事業の今後5か年の要望地区は50地区になっております。まだまだ要望は多い状況だということでもあります。来年度の新規採択につきましては、平成24年度166ヘクタールの新規要望がございまして、それについてはすべて採択できるよう、今、手続きを進めているところでございます。

◆帆苅謙治委員 待っている地域にとっては、これが一つの大きな朗報だと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それで、今回の補正予算、けっこう金額も大きいようですが、年度内発注はどうでしょうか。大丈夫なんでしょうか。この辺についてお伺いします。2月補正予算分の発注は大丈夫か、お伺いします。

◎坂井武徳副部長(農地部) 2月補正予算に係る発注についてですけれども、すでに議決を頂きました冒頭提案分で早期発注が可能なものから順次契約に努めているところでございます。年度末であることから、なかなか年度内の発注が厳しい状況ではありますけれども、できる限り早期発注に努めてまいりたいと考えております。

◆帆刈謙治委員 発注できる分はしたと思うのですけれども、大体どのくらいなのか。パーセンテージでも、金額でもいいですが、その辺は把握していますか。

◎坂井武徳副部長(農地部) まずは全体の発注状況を申し上げますと、12月補正予算で22億円という大きな補正をさせていただきました関係で、現計予算ベースで、発注率は2月末現在で85.3パーセントでございます。災害等もありましたけれども、努力をさせていただいたということでございます。積み残しもありますので、今回の2月補正予算については、鋭意努力はしてまいりますけれども、なかなか率としては厳しいところがあるということを御理解いただきたいと思います。

◆帆刈謙治委員 農地部の予算を見ても、12月補正予算もあったわけだし、建設業の仕事が滞ることなく、連続してできるということになればありがたいと思っております。ほ場整備とか、そういうものは、これからやるといっても無理な話なので、やはり秋口になるのだろうと思っております。いずれにしても、発注を早めるということは、県内経済に対しても好影響を及ぼしますので、農地部の皆さん、地域機関の皆さんも含めて頑張っているということは理解しておりますが、体を壊さない程度に頑張ってもらいたいと思っております。

最後になりますけれども、今、国が示しております、我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画(行動計画)で、土地利用型農業について、将来、経営体が大宗を占める構造を目指しているということでありまして、平成24年度の農地部の予算は、先ほども言いましたけれども前年度並みを計上しておりますが、農地部の来年度の対応について伺います。自分の考えからいくと、少し頑張りすぎて100パーセント近くにしたいのかなという思いもありますが、その辺も含めてお願いします。

◎米田博次農地部長 来年度の農地部としての対応方針ということでございますが、国のほうで行動計画が示されました。この評価はいろいろあると思いますが、農地集積の推進という点では、農地部がこれまで進めてきたほ場整備の方向性と合致するところもあるというように考えております。いずれにいたしましても、新潟県は食料供給基地でございますので、本県の施策として、ほ場整備を契機とした経営体の育成なり、農地の集積を図っていくということが非常に重要でございます。来年度は、これをさらに加速させるために、新たなソフト事業の予算を計上しておりますし、予算の配分と併せて重点化を図っているということです。また、併せて一方で老朽化対策というところも必要でございます。これは本年度から長期的な長寿命化対策の計画の検討も進めておりますので、引き続き、これを進めますとともに、この関係の予算は、本年度を上回る予算額を来年度は計上しているところでございます。重点化を図り、メリハリをつけてやっているところでございます。

そのほか、本年度は災害があつて、災害復旧の関係の事業も続きますので、こういったところもしっかりやっていけないといけないと思っております。ということで、頑張りすぎたのではないかなというふうなお話もありましたが、これは今後、予算の配分があると思っておりますけれども、計上した予算がしっかりと取れるように、頑張っていきたいと考えております。